

## 組織目標評価報告書（平成30年度）

部局名:

評価センター

部局長名:

五福 明夫

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>④センター業務</b>	
<b>④-1 目標</b>	
<p><b>(1)教員活動評価の実施</b> 教員活動評価を確実に実施する。また、これまでの実施実績を踏まえつつ、教員活動評価の見直しを行い、効果的な評価を行うための改善に着手する。併せて、使用期限が近づいている大学情報データベースの更新について検討を行う。</p> <p><b>(2)エビデンスに基づく自己点検評価の実施</b> 第3期中期目標・中期計画の確実な達成に向け、中期計画・年度計画進捗管理シートを活用して、初年度から2年目終了時の活動に対する自己点検評価を実施する。また、自己点検評価に基づき業務実績報告書を作成し、国立大学法人評価を受ける。</p> <p><b>(3)積極的かつ計画的な第三者評価の受審</b> 法科大学院認証評価及び大学機関別選択評価C(教育の国際化の状況)を受審し、これらの自己評価書及び評価結果を公表する。</p>	<p><b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <p><b>(1)教員活動評価の実施</b> 教員活動評価については、新任教員に対し研修で講義を行う等、教員活動評価に対する理解を深めることに努め、全部局の常勤教員を対象に自己点検・評価を確実に実施することができた。評価結果は、給与査定に反映するとともに、個人が特定されない形で評価センターホームページに公開し社会への説明責任を果たしている。今後、教員活動評価の見直しを行うにあたり、他大学(16大学)に対し評価項目及びシステム等に関するアンケートを実施し、情報収集を行った。 また、大学情報データベースの更新について、部局の意見を聴取し、それを踏まえた次期データベースの構成案及び移行スケジュール案について、とりまとめを行った。</p> <p><b>(2)エビデンスに基づく自己点検評価の実施</b> 第3期中期目標・中期計画の確実な達成に向け、中期計画・年度計画進捗管理シートを活用して、各部局等から実施状況及び進捗状況の取りまとめを行い、評価センターにおいて検証を行った。2年目終了時において、進捗状況はすべての計画について「Ⅲ 計画を十分に実施している」以上となっており、全体として概ね順調に計画を遂行していることを確認した。検証結果は、今後の進捗管理及び活動の改善に活用するため、各部局等にフィードバックした。また、これらの自己点検評価に基づき業務実績報告書を作成し、国立大学法人評価を受けた。その結果、4項目すべてにおいて「順調」との評価結果を取得することができた。</p> <p><b>(3)積極的かつ計画的な第三者評価の受審</b> 大学機関別選択評価Cについて、選択評価Cワーキンググループの座長として、自己評価書のとりまとめを行った。また、訪問調査時の面談・視察対応を適切に行い、「目的の達成状況が良好」との評価結果取得に貢献した。 また、法科大学院認証評価について、全学の自己点検評価委員会に陪席し、自己評価書案の確認を行った。</p>
<b>④-2 年度計画との関連</b>	
年度計画【72-1】、【84-1】	-
<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
	-
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>少ないメンバーながら、部局からのセンター委員の協力もあって、評価センターの本年度の業務は確実に実施できたと考えている。教員活動評価は、本学の人的資源を活用して教育・研究に関する成果を上げるために重要なものと位置づけられるが、評価が細か過ぎる、教員組織の変化への対応が難しい、大学全体の目標との整合性が薄い、などといった課題もある。大学にとってまた各教員にとって意義のある教員活動評価を目指して、見直しを含めた検討を今後進めていく予定である。</p> <p>また、中期目標や中期計画を確実に達成できるように、評価センターがチェック機構の役割を果たして自己評価を各部局にフィードバックするとともに、4年目の暫定評価に向けた準備を来年度から始めたい。</p> <p>外部評価についても、経費と手間を考慮しつつ着実に進めていきたい。</p>	